



オーシャンゼリゼー
オーシャンゼリゼー
※注



※注 「オー・シャンゼリゼ」日本語歌詞：安井かすみ

パリ 2024 大会組織委員会会長であるトニー・エスタンゲ氏は、「スポーツでは多様性は強みとなり、異なる背景を持つ選手たちが

お互いを補完し合うことでチームはよりよくなります。パリ 2024 競技大会は、

共有、寛容、尊重の価値を世界中に広めることができる機会です」と唱えました。

人種や宗教や文化の垣根を越えるオリンピックには、これからの多様性社会の縮図があるように思います。

なかでもトニー・エスタンゲ会長が「五輪競技への追加は非常に良い選択だった」と喜んだ新競技があります。早々にチケットが完売したという、「ブレイキン」です。

ブレイキンの起源を聞くと、ますますオリンピックにふさわしいものと感じます。(〇〇)

1970 年代初頭のニューヨークのストリート。ギャング同士の抗争が続く中、あるボスが「殺し合いをせずにダンスで勝負しよう」と提唱し、ダンスを通じたバトルが行われるようになったそうです。

なんか漫画や映画みたいな話ですね。互いに挑発するような仕草をするのもその名残り。(@_@)

でもジャッジが下されると互いに相手を称えて握手やハグ。根底にあるのはリスペクトの精神です。



相手がダンス
している時は、
休憩(break)
しているから
「ブレイキン」
なのデス



パリオリンピックの日本選手団の旗手のひとりを務めるのが、日本の「ブレイキン」を牽引してきた半井重幸選手（ダンサーネーム「Shigekix」）です。

ブレイキンという競技は、そもそも人と違う感じで自分オリジナルのダンスパフォーマンスを行うもの。

ともすれば「人からのアドバイスなんて聞いてたまるか」という世界だそうですが、Shigekix は自らアドバイスを聞きに行くことも厭わず、「それを聞いた中でそこを取ってそこを切る」ことがうまいとスタッフは言います。

「自分 1 人で見られる景色って限界がある。そこには無いものが他の人からは見えていたり他の人から貰えたりする。他の人から刺激を受けて自分なりに自分の軸を大事にしつつ、頭を柔らかくしていろんなものを取り入れていく。そういったマインドセットや感覚を大事にしている。」



御意見上等

Shigekix が、成功の根拠として強調するのは、「競技の根底に流れている文化や

人と人とのつながりの部分」です。(NHK「ブレイキン Shigekix コンコルドの頂へ」より)

周囲の意見に耳を傾け進化を探る彼が目指すものは、「チーム Shigekix」としての王者です。



裸の王様には
なりたくないからネ

僕が以前講師をした「コミュニケーション研修」で、職場環境に影響する態度についてアンケートを取った時右表のような意見が受講者からありました。

オリンピックを見ていて、胸が熱くなるのは選手本人の必死に頑張る姿はもちろんですが、右表にあるような笑顔やハイタッチや握手や拍手など「プラスに作用する態度」に溢れているからではないでしょうか。

選手が失敗を恐れずに挑戦することができるのは、それを尊ぶ心理的安全性が背景にあってこそなのでしょうね。

職場(チーム)環境に影響を与えようと思う態度	
プラスに作用する態度	マイナスに作用する態度
笑顔	挨拶(返事)がない・会話がな
ハイタッチ	目を合わさない・無視
握手	ため息
拍手	舌打ち
ガッツポーズ	足組み、腕組み
ハグ	人に向かって指をさす
ちゃんと挨拶	話しながら机を叩く・ペンを回す
出迎えてくれる	常に不機嫌・不愛想
ウインク	常に怖い顔、しかめっ面

トレビアン!



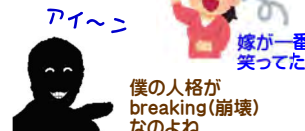
僕はダンスなんてできないし興味もなかったのですが、先が予測できないブレイキンにはワクワクします。

Shigekix をはじめとする日本のブレイキンのメンバーは、複数メダルが狙える強豪とされています。

見るものを魅了する、選手たちの「魂が宿ったダンス」が楽しみです。

あ、そういや僕も「変なおじさん」のダンス(?) はやったことがありますね。(^^)

昔、僕ら親父連中が一列になって、手を前にやったり後ろにやったりして行進した時は爆笑と拍手喝采でしたよ。ブレイキンができないおじさんにはおススメかも。(〇〇)-☆



アイヘン
嫁が一番
笑ってた
僕の人格が
breaking(崩壊)
なのよね